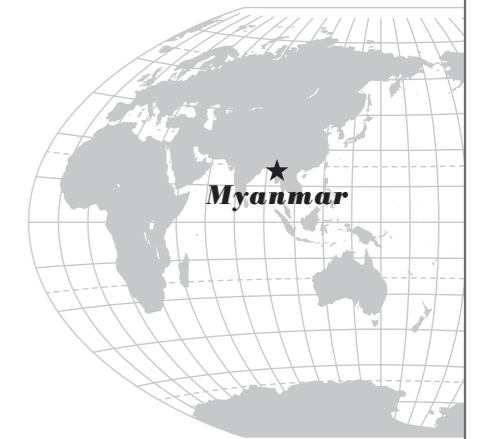


ティラワ経済特区 開発工事



五洋建設株式会社 ミャンマー営業所 ティラワ経済特区開発工事事務所長

坂井 恵一

Keiichi Sakai



南北・東西を貫くメインロード



世界で活躍する
日本の建設企業



オープニングセレモニー



石山での粒調砕石の配合検討の様子

	月間降雨量 (mm)		月間降雨日数 (日)	
	2014年	2015年	2014年	2015年
5月	363	136	14	9
6月	479	585	27	27
7月	735	835	30	28
8月	543	438	27	27
9月	122	250	17	18
10月	200	319	16	17
11月	352	46	10	5
計	2,794	2,609	141	131

現場内設置の雨量計による計測結果

ティラワ降雨量集計記録 (5月~11月)

量が出た。五月から十一月の間に二、五〇〇ミリの以上の降雨がある。多い月では月間八〇〇ミリの降雨に及ぶこともある。想定外の雨量による工事の遅れを最小限に抑えるため、延長約六、〇〇〇メートルの仮設道路を整備し、八〇〇人に

ヤンゴンの雨季はアジア各都市に比べて降雨量が突出しており、五月から十一月の間に二、五〇〇ミリの以上の降雨がある。多い月では月間八〇〇ミリの降雨に及ぶこともある。想定外の雨量による工事の遅れを最小限に抑えるため、延長約六、〇〇〇メートルの仮設道路を整備し、八〇〇人に

ミャンマー連邦共和国の紹介

二〇一一年の経済開放以来、アジア最後のフロンティアとも呼ばれ、急速な経済成長を続けるミャンマー。日本のメディアにも頻繁に取り上げられ、日本人駐在員も急激に増え続けている。昨年二〇一五年に行われた国政選挙では、アウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟 (NLD) が圧勝し、半世紀以上続いた軍事政権及び、その後の軍の影響力の強い政権に終止符が打たれたことでも大きな話題となった。

プロジェクトの紹介

ティラワ経済特区開発事業は経済発展の進むミャンマーにおいて、税の優遇措置や輸出入規制の緩和が認められた新たな工業団地を、ヤンゴン郊外に位置するティラワ地区に建設する、経済開放以降、日緬両国が官民を挙げて進めるプロジェクトである。事業主体は、日系民間企業、JICA、ミャンマー民間企業、ミャンマー政府からなるミャンマー・ジャパン・ティラワ・デベロップメント社 (MJTD) である。総計画面積二、四〇〇畝のうち先行開発区域四〇五畝のうち三二六畝の開発を、二〇一四年二月より二九カ月 (このうちI期工事は一八カ月) かけて施工している (I期工事部分は二〇一五



ティラワ完成予想図 (出典: 国際協力機構)

工事のトピックス

経済開放が進んでいるとはいえ、同国では工事施工に際し、調達可能な資機材も極めて限ら

年九月にオープニングセレモニーを開催)。

及ぶ作業員を動員して施工にあたった。乾季中の最盛期には最大一、三〇〇人の作業員と二〇〇台以上の重機を配置して工事を完成させた。

労働力に関しては熟練工が不足している。鉄筋コンクリート構造物の品質向上のため、鉄筋・型枠の組立て方やコンクリートの打設方法などの講習会を随時開催し、スタッフ及び作業員の技能向上を図り、施工場所においても細かな指導を行った。ミャンマーで働く技術者は勤勉で、知識や技術は未熟ながらもこのような講習の際には非常に熱心な姿勢で取り組んでいた。

おわりに

ミャンマーはまさしく発展途上の渦中だ。工事初期には外国企業による輸入許可、税制などの法整備の面で不明な点も多々あったが、発注者をはじめミャンマー・日本両政府から多くの支援をいただき、工事は順調に進捗している。ティラワ経済特区開発工事は当社が受注したミャンマー初の大型工事である。現在まで大きなトラブルもなく、発注者ならびに関係各所とも良好な関係を築き、工事を遂行している。ここでの実績を確実に積み上げ、今後見込まれる工業団地内での工場建築工事や、ティラワ工業団地周辺のインフラ整備事業等にも積極的に取り組んでいきたい。